

# 中日ニュース

シネスコ版

道新 No. 197 カラスケル - バス・ガイド - 2/8 (本編トッパ追加)

高知新 No. 280 本編同レ

新愛媛 No. 198

No. 445 37.7.27

甲口新 No. 101 夏、石典給巻 - 鷗、管玄策 - 12/1 (本編トッパ追加)

## 一、人気よぶ給食センター

— 東京

東京の材木問屋街として知られる深川の木場に全国にもめずらしい給食センターが好評をばくしています。これは問屋に働く店員さんたちを相手にある材木関係の組合が厚生事業として行っているもの。一日、二、八〇〇人分、凡そ五、六〇〇食を作り出すこの給食屋さん、総勢五〇〇人でご飯ばかりおかず作り、そして配達、仕入れとまるで戦場さながら。その上お得意さんは重労働の店員さんとおつてカロリもおろそかに出来ずしかもお値段の方は一日三食で一七〇円也とか昨今ではどこのお店もお手頃いさん不足からますます「ウケ」に入っている様です。

## 一、お母さんの夏休み

— 東京

夏休みをむかえて、東京港区の南山小学校ではひと夏を有意義に過ごす為母子協議会を開いて、勉強時間や遊び時間の取りきめをおこないました。だが、この夏休みに大いに勉強しましょうと張切っているお母さんグループがあります。麻布の英語の勉強グループでは、戦時中に学校教育を受けた世代の為、英語はなによりも苦手ですが、このままでは子供たちに取り残されると中学一年のリーダーのおさらいをはじめたものです。文京区の昭和小学校では美術グループ。絵心を通じて子供たちの心とふれ合うことが出来るといっています。又、白金保育園に子供たちを預けていることよって結びついた「つみき会」。九月上演を目指して歌舞伎十八番「勸進帳」のけいこに一生懸命です。多摩川べりでは、夏になって激増する水の犠牲者を防ぐ為に赤十字奉仕団のお母さんたちが連日パトロールです。勉強に遊びの監視に夏休みのお母さんたちは手一っぱいのいそがしさです。

## アイモ風土記

## 一、死霊よみがえる山

— 青森・恐山

本州つぎるところ青森県下北半島の恐山は、死者の霊を呼ぶ不思議な山。山頂の宇曾利湖にそって、三途の川を渡れば生きながらに幽界に入るといふものです。毎年七月の地藏講には、すべての死者はここに集まるとされ深い信仰を集めてきました。千年の昔、ここを開いた慈覚大師は、「ここに來たりて仏の声を聞け」と教えました。そして、千体仏には必ず死者の顔があるといわれ、亡き縁者の面影を探すのです。地上の景色をあつた世になぞらえた場所のなかでもここは最もリアルな姿をとどめています。その裏には雪国東北のきびしい風土がありました。現実の救いを極楽浄土の彼岸に求めた諦めの哲学。それは単作農民のなかで今日も強く生きつづけているのです。